

循環器疾患実態調査(JROAD)データを用いた 急性心筋梗塞、心不全における危険因子と予後予測モデルの構築

京都府立医科大学附属病院（以下、当大学）では、一般社団法人日本循環器学会が実施している「日本の循環器病疾患医療の質の向上に資する研究」を目的とした JROAD-DPC（循環器疾患診療実態調査）データを用いて急性心筋梗塞および心不全患者さんの実態調査を実施しています。この研究は実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

・研究の目的

一部の疾患（高血圧症や脂質異常症、糖尿病など）や患者さんの背景（肥満、喫煙、精神状態など）は循環器疾患の危険性を高めるといわれており（危険因子といいます）、患者さんの予後に影響を与えることが知られています。本邦では循環器疾患が悪性腫瘍に次ぐ死因の第2位を占めており、循環器疾患の予防や治療は国民の健康を維持するうえで大変重要です。危険因子にどのような特徴があるかを調査しその実態を明らかにすれば、これからの循環器疾患の予防と治療に大きく貢献できると考えます。そこで当大学では、JROAD-DPCという全国規模の臨床データベースを用いて、循環器疾患の代表的な疾患である急性心筋梗塞と心不全で入院した患者さんのデータを解析し、循環器疾患の危険因子と短期予後ならびに患者さんの社会的・地理的な背景との関連性を調査するために以下の方法で研究することとしました。

・研究の方法

[研究課題名]

JROAD-DPCデータを用いた機械学習による医療政策に関する研究

[対象となる方]

日本循環器学会に協力する全国の循環器科または心臓外科を標榜するDPC病院に2012年4月1日から2020年3月31日までの間、急性心筋梗塞または心不全の病名で入院した患者さん。

[研究期間]

本学医学倫理審査委員会承認日から2023年3月31日まで。

[利用する診療情報]

参加施設から日本循環器学会循環器疾患診療実態調査へ提供された以下の情報

生年月日、性別、発症年月日、入院年月日、入院経路、病名、併存症名、合併症名、入院前NYHAスコア、画像診断・検査の有無、リハビリテーションの有無、退院先、退院時DPCコード、院内死亡の有無、在院日数、退院時転帰、入院中および外来時の処置・手術内容、実施日、使用された薬剤・医療材料など

[個人情報の取り扱い]

氏名、生年月日、住所などの個人を特定する情報はすべて日本循環器学会が定めるデータ運用管理規定に従い、外部と隔離された情報端末によって厳重に管理します。なお本研究の成果を学会や学術雑誌等で公表する場合や特許などを申請する場合には、個人が特定できないような形で情報を使用します。いかなる状況においても患者さんの情報が漏洩しないようプライバシーの保護に細心の注意を払います。

[研究責任者]

京都府立医科大学附属病院・所属：循環器・腎臓内科 的場 聖明

[問合せ先]

情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2022年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究代表者 京都府立医科大学附属病院・所属：循環器・腎臓内科 西 真宏

TEL：075-251-5111